

### 第53回 経営協議会議事録

日 時 平成26年5月29日（木）14時00分～15時15分

場 所 事務局棟3階共通会議室

出席者 山本学長

赤木委員、檜畑委員、柏原委員、松原委員、南委員

池際、平田、島村各理事

（中村監事、田中監事、遠藤副学長、瀧副学長、乗杉副学長、永井教育学部長、吉村経済学部長、伊東システム工学部長、山田観光学部長、多企画調整役、池下総務課長、吉井財務課長、南方参事役）

欠席者 帯野理事（天野副学長、川本副学長）

議事に先立ち、学長から、和歌山大学の近況報告として、大学院観光学研究科博士課程の設置及び教員組織の一元化（学系の設置、教員組織総会の開催など）について説明があった。

学長から、第52回の議事録について、意見等の有無について確認があり、了承した。

#### 議 事

##### 1. 学長選考会議委員の選出について

学長から、経営協議会の委員が第6期委員となるので、新たに外部委員から学長選考会議委員を選出していただく必要があるとの説明があり、審議の結果、昨期の委員に継続して就任していただくこととなった。

##### 2. 「障がい学生支援室」の設置及び関係規程の整備について

池際理事から資料1に基づき説明があり、審議の結果、了承した。なお、以下の意見交換があった。

○すべての建物にエレベータを設置されているのか。

→すべてではないが、使用頻度が高い建物にはエレベータを設置している。

○多種多様な障がいがあるが。

→入試の段階で自己開示してくださる方に対しては、入学当初から対応できるが、自己認識がない場合は、大学生活という新しい環境下においてトラブルを起こすことがある。また、保護者の方が認めたくないというケースがある。様々なケースがあるので、専門家を配置して対応をしている。

→情報系を中心に、発達障害の学生が多く、留年・退学する者が増えてきている。その対応として、臨床心理士を非常勤講師として採用し、教員に対する

<p>コンサルテーションを中心に活動してもらっている。</p> <p>○附属学校の対応はどうなっているのか。</p> <p>→附属3校に特別支援コーディネーターを置いていたが、現在は附属3校を担当する教育相談コーディネーターとして様々な問題に対応している。</p>
<p>報 告</p>
<p>1. システム工学部改組に係る事前伺いの提出について</p> <p>島村理事から資料2に基づき説明があった。</p> <p>○大改革になると思うが、入試はどうするのか。入学後、2年次からメジャーに分かれるのか。また、10メジャーに定員はあるのか。</p> <p>→設備上の制約があるので、今は目安として1メジャー30名程度と考えている。ただし、定員には幅を持たせることを学部内で合意がとれている。</p> <p>○大学院システム工学研究科はどうなるのか。</p> <p>→システム工学研究科は、システム工学専攻の1専攻で構成されている。大学院のクラスタに対応する形で、学科改編を考えている。</p> <p>○1年次にメジャーの選び方を、2年次に将来の進路に向けた学び方を丁寧に教えることが今後重要となる。</p> <p>○学生は、人生の岐路・選択をなるべく後送りにする傾向がある。そのニーズを取り上げて応えることも大事ではあるが、一方で早い段階から選択をしてもらい、高度な教育を身に付けてもらうということは、特にキャリア教育では大事な部分である。このような形にしてよかったと言ってもらうためには、入口改革だけでなく、出口のところまでどれだけの成果があったか評価できるようにしなければならない。全国的には、どのような傾向があるのか。</p> <p>→理工系の大学では、このような改革を行っている大学はほとんどなく、複数の学科を一つにする改革を行っているところである。現在、他大学で行っている改革は、設立時において既に行っている。</p> <p>○昔に比べ修業年限が長くなってきている。学歴が高くて就職できない。それよりはむしろ優秀な学部生、高校生が早く社会に出た方がありがたいという部分もあるのですが、文科省はどのように社会をデザインしようとしているのか。</p> <p>→文科省は、理工系人材については、大学院修了をベースにしたいと考えていると理解している。</p>
<p>2. 和歌山大学改革・機能強化に関する基本方針について</p> <p>多企画調整役から資料3に基づき説明があった。</p>
<p style="text-align: right;">以 上</p>